

# 専門分野

## 小児看護学（講義4単位・実習2単位）

### 1. 小児看護学の考え方

小児医療の急速な発展のなかで小児看護は、胎生期から成人の移行期までを連続性のある対象ととらえ、各時期のニーズに応じた支援の提供が求められている。看護実践の場も多様化し、新生児集中治療室や小児救急などでは、高度に専門化された看護がおこなわれている。地域では、精神遅滞・情緒障害・肢体不自由児などが多くの時間を家庭で生活しており、サポートが必要な状況である。また、急性期の周手術期の看護のみならず、長期的に障害を有す可能性のある疾患をもつ小児と家族への継続的な看護の必要性が重要視され、包括的ケアへと発展している。

そこで、小児看護学では、あらゆる発達段階と健康段階に応じた看護を理解するために、多様な状況にある小児と家族を設定し、それぞれの状況の中で、小児と家族へどのような看護が必要なのかを理解するための基礎的知識を学ぶ。その過程で、小児は、環境との相互作用の中で生活し、成長発達し続ける限りない可能性を持つ存在であることやひとりの人格を持ち、尊重されるべき存在であるととらえる姿勢を学ぶ。

### 2. 目的

小児各期の特徴、小児を取り巻く環境や守られるべき権利と倫理を理解し、小児の正常な成長・発達を促すための養育と、健康を障害した様々な健康段階の小児と家族に対する看護を学ぶ。

### 3. 目標

- 1) 小児看護の対象を理解し、小児看護の特徴がわかる。
- 2) 小児各期の特徴と小児が健康な生活を送るための養育について理解する。
- 3) 小児を取り巻く環境を理解し、健康問題との関連がわかる。
- 4) 小児の権利を尊重した看護や小児医療の課題がわかる。
- 5) 小児の成長・発達を支える諸制度とその活用がわかる。
- 6) 小児の各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。
- 7) 小児看護に必要な基本的技術を身につける。
- 8) 疾病や障害を持つ小児と家族への看護を実施する。